

ライフ展ファミリートーク 藤岡浩子さんインタビュー

2020年6月5日（金）、公開制作中の祐機さんのお母さんの浩子さんにインタビューを行いました。



祐機さん（中央）と母の浩子さん（向かって右）、お祖母さん（左）と一緒に

—新型コロナウイルスの影響で、自宅で過ごされる時間も長かったと思いますが、祐機さんの様子はどうでしたか？

毎日「感染者が何人でした」みたいな、沈んだニュースが続いていたでしょう？明るいニュースが少なかったですね。この人たちは周りの雰囲気にとっても敏感ですから、特にゴールデンウィークあたりは、結構不安定だったかな。けれども、美術館が5月21日に開館して、月末からくるようになってから、安定している。自分の作品に囲まれて紙を切る。たくさんの人に見ていただいて喜んでもらえる。ここは、祐機の‘居場所’ですから。この時間が本人にとって一番心地いいので、今は調子がよくておだやかですよ。

—祐機さんの「調子がいい」時の、1日のルーティンのようなものはありますか？

毎日 8 時半に起きて、9 時半に施設に通います。15 時頃帰ってきて、晩御飯を食べる。そのあと、祐機と私と父親で近くのアクアドームまでウォーキングするのが毎日の日課です。3 人で写メを 1 枚撮って、一人暮らしをしている祐機の姉に「みんな元気だよ」とラインで送るんです。そのあとお風呂に入って、クラシックなどの CD を聞くゆったりまったりタイム。夜中 24 時半くらいから、祐機の紙を切る「仕事」が始まります。最近では、30 分とか 1 時間くらいかな。その後、25 時位に寝る、というのがお決まりのコースです。

ルーティンが安定していると、調子もいいですね。そのような中でも、祐機さんのマイブームのようなものはありますか？

そう、最近ではウォーキングの前に古関裕而（こせき・ゆうじ）さんの曲を聞くのがマイブームなんです。NHK の朝ドラの「エール」のモデルになった作曲家の方です。「オリンピック・マーチ」なんかを聞いているの。他にも「トンカラリンの隣組」（作詞は岡本一平、作曲・編曲は飯田信夫）とか、なぜだかよくわからないけど、「軍歌」ブームもあったんです（笑）。どうも youtube で関連する音楽を聴いて、リズムが気に入ったみたいなんですけどね。

一作品に関して、何かブームや変化のようなものがあるのでしょうか？

最近また少しだけ、変わったんですよ。元々は平たい楕円のようなサイズの紙にクレヨンで色を塗ってそれを切っていたでしょう？それが最近では、白いコピー用紙や色紙を 5 cm 位の短いフリンジ状に切っていたんです。それが、最近では、フリンジになる前の紙にも色を塗ってから切るのが出てきたの。ほんとごく最近です。じわじわと少しずつ変わっていくんですね。

一作品の保存方法がバラエティに富んでいると評判です。

2002 年頃、平たい作品を作っていた時は、現代美術館の南畷さんにファイルに入れて保存したら？と言われて、なるほどと思って台紙と一緒に入れ始めたのです。ベースになる A4 の黒い上質紙ってないから、紙屋さんに注文して切ってもらって必死で入れました（笑）。そのあと、商品券をもらった時にその箱を見て「これだ！」ってひらめいたのよね。軽くて、しっかりしていて、重ねられるし、作品リストも外に貼れるし。薄いプラスチックの袋も、こんなものがあるよって教えてもらったんです。日本製で丈夫で、サイズも色々あるし、空気を入れて膨らませられるのもいいですよ。

一ハサミの使いこみぶりに驚かされている方も多かったです。

最近は PLUS っていう会社のハサミしか使わないんです。高級なものではなくて、普通に家庭で使うようなものです。工業製品だから同じはずなんだけど、自分にフィットするかどうか好みがあるみたい。まとめ買いしたものを箱から出して見せると、試してみて、気に入ったものだけをずっと壊れるまで使います。だからうちには、使わないハサミが箱いっぱいある（笑）。最近、刃先がカーブタイプに変わっちゃって、ネットで旧型を見つけると買い占めています。



一祐機さんの子どもの頃からの作品を全部取っておき、それを様々な方法で保存しているアイデアも楽しいですし、制作する環境や、日々のルーティンを保っている、家族の努力や愛情を感じます。これから、どんな作品を作っていきたいですか？

祐機には、毎日、散々こきつかわれていますが（笑）、思いもしない場所で展示ができた、会えないような人に会うことができたり、きっと普通では体験できなかったことばかりで、有難いなと思っています。ただ切り紙は作れるけれど、本人がそれを保存したり、飾ったりすることが出来る訳ではないので、最後ははかないものになる。その時が来たら、この作品たちをどうするのか、その事だけはしっかりと考えて、決めていくつもりです。だから、祐機の作品を完璧に整理し終わるまでは、私は死ねない（笑）。完全に整理ができたなら、それを全部展示した個展をするのが、私の夢です。まだ、場所も何も決まっていないけれど、展示方法やタイトルは自分の中で、既に色々決まっているんですよ。